

専門分野が活かせる地元就職を目指し参加 自分の「新たな強み」に気づき「働く」を再考

参加のきっかけ：

コロナ禍で岩手になかなか帰れなかったことに歯がゆさを感じ、地元就職を考えるようになりました。一方で大学院に進学しているため、専門知識を活かせる仕事に就きたいとも考えていました。しかしこの2つの条件を満たす仕事はすぐに思い浮かびませんでした。岩手でできる自分の専門知識を活かせる仕事にはどんなものがあるのか知りたくて、インターンシップに参加することにしました。ジョブカフェいわてと一緒に自分の専攻に近い企業を探し、自分でも情報収集をしました。今回の企業はインターンシップの募集をしていないところでしたが、ジョブカフェいわてを通じて連絡をしていただき実現しました。

参加してみて：

教えていただいた仕事を早く正確にこなしていくのが大変でした。自分の作業が遅くなってしまうと仕事全体の流れも滞ってしまうし、正確な仕事をしないと依頼先に会社として迷惑をかけてしまうという、組織の構成員として働くことの重みを感じることができました。一番印象に残っているのは「あなたはどこでもやっていける力があるよ」と言っていたことです。自分の能力や人柄が、インターンシップという短い期間の中でも周囲に影響を及ぼすことができていることを、この言葉で実感しました。こうしたことを機に、今まで自分の知識や技術を活かせる仕事ばかりではなく、自分の性格も活かせる仕事についても視野を広げて考えてみたいと思えるようになりました。これは自己分析にもつながる気づきでした。自分の譲れない「軸」は、就活を支えてくれるものでもあり、何十年後の自分は何をしたいかという将来について考えるきっかけにもなりました。

voice: サポートデスク スタッフから

インターンシップでは「働く」ことについて新たな気づきがあったようです。それは同じ職場の方々との関係だけでなく、会社のモノやサービスを通じて関わるお客さまや取引先の方々から「想像を超える多くの人たち」と関わって仕事が成り立っているという気づきでした。これからは少し広がった視野で就職活動ができることを期待しています。

今回受け入れていただいた岩手県薬剤師会検査センターは、これまでインターンシップを実施していませんでしたが、福土さんの学んでいることや希望などにぴったりの職場だと思い、ご担当の方に相談をしました。受け入れにあたって書類や態勢の整備、プログラム組み立てなど準備をしていただき今回インターンシップが実現しました。

体験したのは /

福土 由真さん

(盛岡市出身)

秋田大学大学院

理工学研究科生命科学専攻

学部の4年間で生命科学を学びました。遺伝子編集など生物の知識と有機化学合成など化学の知識を組み合わせ、解決策を考える力を身につけました。学部での学びを生かし大学院では、がんの広がりや転移の仕組みについて研究しています。

実施プログラム /

飲料水や食品、環境の検査・分析を行う機関で
5日間のインターンシップ

実習先：岩手県薬剤師会検査センター

所在地：盛岡市上堂3-17-37

事業内容：水や食品、医薬品の分析と環境測定など

実施プログラムの主な内容

- ・環境分析業務の見学、体験
(排水中の有害物質量の測定など)
- ・水質分析業務の見学、体験
(プール水の塩素量や汚れ具合の測定など)
- ・食品分析業務の見学、体験
(食品の栄養素量の測定など)